

# ドクターに聞きました

## インフルエンザについて

今年もインフルエンザのシーズンになりました。肺炎など危険な状態にならないように予防接種をしつかりガードしておきたいところです。

ところで皆さんカゼとインフルエンザの違いをご存知ですか？

カゼは普通感冒ともいい原因の多くはライノウイルス、コロナウイルス、アデノウイルスなどのウイルスです。症状はノドの痛み、鼻汁、咳などで熱が出ても38度までのことが多く比較的ゆつくり症状が出てきます。またノドからタイプや鼻からタイプなど症状の出方はいろいろですが最終的に複数の症状が重なることが特徴です。一方インフルエンザはインフルエンザウイルスが原因で急な高熱、全身の筋肉痛や頭痛、体のだるさなどで発症しその後鼻汁やノドの痛み、咳などカゼによく似た症状になります。しかしここ数年、流行期に症状の軽い人でも検査をするとインフルエンザということもあり判断が難しい

ケースが増えています。

### インフルエンザか否か

さてこのインフルエンザの検査、過信は禁物です。陽性ならば間違いないのですが、陰性なら違うとは言えません。何しろ的中率はおどろきの6割、つまりインフルエンザの人が10人いたとして4人は反応が出ません。それよりむしろインフルエンザの診断で重要なのは『インフルエンザが流行っているか？』と『症状がインフルエンザっぽいか？』という状況判断です。両方そろっていければ中央率8割で検査より正確に診断できます。ですから私の医院では流行中でインフルエンザの典型的症状があれば検査せずにインフルエンザと診断しクスリを出すことがほとんどです。それでも検査を希望される方や会社、学校もあります。が、もし陰性に出た場合は逆に事態が混乱しかねないことをぜひご理解いただければと思います。検査する意味があ

るのは流行はじまりの疑わしい場合と流行中の非典型的な場合などです。どの検査についても言えることですが検査の限界を知り結果に振り回されることのないように心がけたいものです。

### インフルエンザの治療

次にインフルエンザの予防と治療についてです。インフルエンザワクチンを打てば大丈夫とは言えませんが高齢の方にはぜひ接種していただきたいと思っています。(ワクチンの有効率は毎年違いますが平均3割とされています)また流行期は人ごみのなかを出歩かないこと。もし「かかったかな？」と思ったらできるだけ人と接触するのは避けて早めに受診してください。クスリの効果は飲まない場合に比べ1日早く治る程度とされています。インフルエンザはほとんどの場合自然治癒するので症状がひどくないならクスリに頼らずゆつくり自宅療養してもいいのですが、65歳以上の方や慢性疾患のある方などは積極的に治療すべきです。

ところで今年新しいクスリ(ゾフルーザ)が出ました。効果は従来のクスリと同等です。このクスリは一回飲むだけ

でいいのが特徴ですが世界に先駆けて日本で認可されたため副作用や耐性ウイルスの出現などまだ十分検証されていません。よって専門家の意見でもクスリを確実に飲めそうにない場合などごく限られたケースのみを使うことが現実的とされています。なお、それぞれの病状や治療についてはかかりつけの医師によくご相談ください。



ひろしま美術館  
ゴッホ「ドービニーの庭」の前で

木村医院院長・理事長  
木村 喜男先生

専門 内科 消化器内科

経歴

昭和 59 年 久留米大学医学部卒業  
平成 10 年 小倉南区下曾根の現医院を継承  
平成 24 年～ 小倉医師会理事

趣味

温泉巡り・美術館巡り・居酒屋巡り  
京都散策・仏像鑑賞・音楽鑑賞

木村医院 小倉南区下曾根 4 丁目 23-28  
☎ 093-471-7888